



## 秋の荒川クリーンエイド 2005 板橋自然生態園会場で実施

### 荒川の水質調査を行いました

SOEは今年から荒川クリーンエイドに参加しました(詳細は4ページに)。そこでは、ゴミ拾い以外にも大切なことが11年間も続けられていることを知りました。荒川の水質調査です。水質調査はバックテストを主としたとても簡単な方法で、荒川クリーンエイドでは上流から河口まで約60カ所で行われます。その記録からは、汚染の原因や、改善されつつある荒川の水質の状態などが判ってきています。今回私たちは自然生態園桟橋から採取した水を調査しました。できるだけ流れの真ん中あたりから検査する川の水を採取するそうです。ロープをつけたアルミ製の計量カップで組み上げました。

#### [調べる項目]

気温と水温：温度計で計る。水の色：目視 水におい：鼻で嗅ぐ。

透視度：水の濁りを調べる。透視度計に水を入れ、十字の線が描かれている板を沈め、十字線がはっきりと見えるまで引き上げ、はっきりと見えた時の深さを測ります。深さが浅いほどにごっていることとなります。

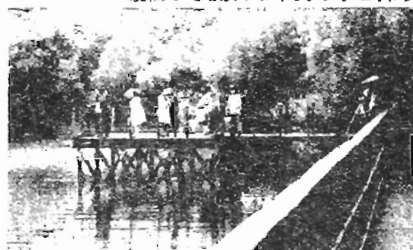
pH(水素イオン濃度)：水の酸性、中性、アルカリ性などを、バックテストで調べます。pH7が中性、7より小さければ酸性、大きければアルカリ性ですが、川の生き物にはpH6.8～8.5が適しているそうです。

COD(科学的酸素要求量)：水中の有機物が分解される時に使われる酸素の量をバックテストで調べます。値が大きいほど水が汚れていることを示します。イワナ、ヤマメなどが棲むあたりではCODは0～2。コイやフナはCOD 5～8でも大丈夫です。

アンモニア体窒素/亜硝酸性窒素：生活排水などに含まれる汚れ(有機物)が分解され、窒素化合物となったものをバックテストで調べます。値が大きいほど川が汚れていることを示します。

今回の調査ではpH7、COD3、アンモニア体窒素0.9、亜硝酸性窒素0.06でした。雨が降ったあとということもあるのですが、荒川の水は比較的清い水という結果になりました。

桟橋から流れの中央の水を採取



透視度計は大きなメスシリンダーのよう 採取した水を入れ上から覗きながら計測版を引き上げる



バックセット 右上のチューブ状の中に検査項目に反応する薬品があり、スポイトのように水を採取し変化する色で濃度を測定

荒川クリーンエイド 水質調査 調査日時：10月16日(日) 調査河川・地点名：荒川・板橋自然生態園

調査項目	調査地点の水温	2003年の測定値(2003年10月19日(日)・快晴)
1-気温	20℃	28℃-
2-水温	20℃	20℃-
3-水の色	うす茶	うす茶
4-水におい	ほぼ無臭	ほぼ無臭
5-透視度(にごり)	25cm	63cm
6-pH(水素イオン濃度)	7.0	7.5
7-COD(科学的酸素要求量)	3mg/l	8mg/l
8-アンモニア体窒素	0.9mg/l	4mg/l
9-亜硝酸性窒素	0.06mg/l	0.045mg/l
10-硝酸性窒素	1.78mg/l	0.7mg/l
11-総窒素	2.56mg/l	4.475mg/l (8～10の合計値)

日本女子大学・学生有志の皆さんが、学園祭・日女祭(ひめのさい)で、生田山観察会の記録を発表しました。

10月22日(土)・23日(日)  
日本女子大学人間社会学部  
西生田キャンパス

## 「自然観察会」日女祭にて開催

去る10月22、23日、日本女子大では日女祭が行われました。私たちは、春・夏2回の観察会を開きその成果と生田の自然を多くの人に感じてもらうと「自然探検隊」として学園祭に参加しました。

教室を山の自然に見立て、生田の秋を満喫して頂きました。さあ、皆さん、行った方も行けなかった方も今から探検隊のメンバーです。一緒に楽しんで下さい！！

ぞーれ！



### 観察会で見られた植物の紹介

歩んだルートとそこで見られた植物をピックアップし、マップにしました。

名前の由来なども紹介しました。珍しい植物も発見され、まだまだ自然の豊かさを感じました。



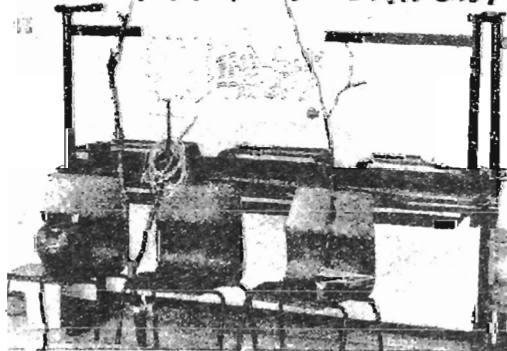


西生田のキャンパス内に残る、自然林・生田の山。今年の春夏2回に渡る観察会から、学生有志の皆さんが感じた自然への感動がそのまま伝わるすてきな展示でした。学校関係者以外はなかなか入れない貴重な記録です。今回は主催者である学生有志のお一人、小椋朋美さんにレポートを寄せていただきました。



落ち葉のツリーは色のグラデーションが素敵でした。他に草で編んだコースターや、本女産の栗、どんぐりに絵を描きました。子どもに大好評でした。これらはニッチ、えっちゃんの力作です。

### ネイチャーゲーム(わなげ)



木の枝、ツルを使った手作りのおもちゃです。子どもの大人も盛り上がったのは懐かしのパチンコでした。

自然は遊びの才能も引き出してくれますね。楽しんだあとは自然へかえしましたよ。

入り口の看板も古新聞でリサイクル



SOEのメンバーも加わって賑わう会場

### 隊員の感想

生田の山を展示することで私は二つの成果が得られたと思う。一つは生田の自然のマップを作ることによって、自分達のこれまでの活動で積み重ねたことを振り返ることができたこと。観察会の感想をポスターにすることで、活動のまとめができた。また、振り返ることによって今後の活動の目標ができたと思う。二つ目は、生田の自然のよさを多くの人と共有できたこと。こどもからお年寄りまで多くの人が展示を見に来てくれた。どんぐりの輪投げで楽しむことで自然のよさを感じてもらえたと思う。学園祭に参加したことを励みに今後の活動の幅を広げたい。(馬場みほ)

今回、短い期間の準備で少し苦勞したところも少しありましたが、皆で協力できたおかげで、二回の観察会を活かしたよい展示に仕上がったと思います。お客様の反応も、思わず「この山に入りたい!」と言ってもらえたりしたこと、かなり良かったと思います。自然と言うものがこんなにも人を惹き付けるのかということに改めて実感しました。

次回は体験コーナーをつくって、来た人により自然を感じてもらえるような工夫もしたいなと思いました。(高橋恵理子)

第1回目の生田の山の発表会。学生や近所の方が興味を持ってくださり、この山の自然を共有できる喜びを感じました。まだまだ魅力が詰まった宝の山。何十年あとも生き活きた命が住んでいる豊かな自然が続くために、自然を愛する隊員が増えればいいなと思いました。このような活動を通じて、自分自身の学生生活も豊かになっていくと感じています。(小椋朋美)

当初不安だらけだった文化祭。しかし、発表に向けて活動していくうちに希望が膨らんでいきました。

少ない人数でしたが、だからこそより協力して活動に取り組みしたように思います。私たちが体験して感じたあの感動を、一人でも多くの人に伝えたい。その気持ちを持って、この発表を行っていったと感じています。最後になりますが、先生方、SOEの皆様、ご協力頂きまして本当にありがとうございました。これからの活動も力を入れて頑張っていきますので、よろしくお願い致します!(新田章子)



# 荒川クリーンエイドに参加しました。 | 10月16日(日) 2005年 秋のクリーンエイド一斉行動日 | 10:00 - 13:00



今年で12年目◆1994年荒川放水路の通水70周年を記念した「荒川クリエーション'94」に建設省(現国土交通省)荒川下流工事事務所(当時)の呼びかけで始まったのが荒川クリーンエイド。野鳥観察を通して親交温めてきた『いたばし野鳥クラブ』の栗林氏は、なんと、現在の主催団体であるNPO法人荒川クリーンエイド・フォーラムの理事。荒川を、自然生態園付近を拠点とするSOEは願ったりかなったり、遠慮

無く共催参加させていただくことになりました。でも、残念なことに、記念すべき初参加の一斉行動日は、雨。多くの実施会場では、中止や延期になってしまいましたが、ここ自然生態園会場では、初参加の我々に気を遣っていただいたのが、クリーンエイド時間短縮版を実施しました。この日はほかに上流の秩父から下流河口まで、6カ所で行われたそうです。さて、SOEは、いつもの定点観測の場所のゴミ拾いを行いました。つつい気合いが入り、栗林さんの終了の合図がでてでも誰一人止めようとしません。栗林さんの終了の合図、実はクリーンエイドのもう一つの重要な作業『水質測定』、が待っていたのです。水質調査の目的は、その川の水の中で生き物が生きていくことができるかを確かめることです。この11年で、全般に水質は改善されているようで、釣りで獲ったハゼやボラ、スズキなどの魚のおいもあまり気にならずに食べられるようになったそうです。最後にこの会場の恒例『おいしい豚汁』をご馳走になり、渡り鳥の観察や、これからの荒川について、楽しく語る事ができました。共催団体のみなさん、そして読者の皆さん、2006年春のクリーンエイドでまたお会いしましょう。



専用の45Lゴミ袋。ガンブッチくんが赤いのは可燃ゴミ、青=不燃、緑=資源で分別。当日の成果は、可燃4袋、不燃6、資源3、家電製品など粗大ゴミが5個でした。



防災食のわかめご飯の試食もありました。結構うまい

- ・主催：NPO荒川クリーンエイド・フォーラム
- ・共催：いたばし野鳥クラブ
- ・NPO板橋自然と遊びの会
- ・全通板橋支部
- ・NPOセンスオブアース
- ・協力：板橋区みどり公園課
- ・実施会場：6会場(一斉活動日)
- ・7会場(9月~10月)
- ・参加人数：約1300人



ピオトープでネイチャーゲーム

◆『板橋区立運根第二小学校』の学校ピオトープの5周年記念イベントが11月5日開催されました。SOEが企画運営をお手伝いしたネイチャーゲームも、一年から六年までの90名の参加児童が一緒になって参加できる楽しい内容でした。(詳しくは次号で) ◆当日もう一つSOEがお手伝いしたことは、7月の彩湖観察会で採取した『トダスゲ』の贈呈です。

戸田菅と記されるように、荒川流域の戸田が名前の由来であるカヤツリグサ科の植物です。三重県、熊本県と荒川戸田流域にしか生息していない、絶滅危惧種です。彩湖学習センターが管理しているトダスゲから種を譲っていただきSOEで育てた苗を贈りました。ピオトープという恵まれた環境で育ってくれることを願っています。



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア